

# 中国の大学の日本語教育における副詞の指導への考え

——「きっと」と「必ず」の場合——

王 冲\*

## The Idea to Instruction of the Adverb

### in the Japanese Language Education of the University in China :

The case of kitto and kanarazu

WANG Chong

#### 概要

学生在学习日语副词时常常出现偏误，教师在教学中也会感到日语副词的指导很难。特别是语气副词。如果再涉及到多义副词和近义副词，就会难上加难。本文以“きっと”“必ず”为例来探讨一下教学对策。这两词属于有着多种用法的近义语气副词。本文先提示出学生这两词的学习状况。然后调查教科书和词典里有关记述。最后采访大学里的基础日语教师，了解实际教学情况。基于这三项的结果提出教师应该怎样解决日语副词教学这一难题。

关键词：近义副词、指导、中介语、基本用法

#### 1. はじめに

副詞習得の難しさは、これまでも多くの先行研究で「日常会話ではさほど不自由しない中上級学習者でも、副詞があまり習得されていない」と指摘されてきた（大関 1993; 北條 1982 など）。特に、陳述副詞は話し手の心的態度として捉えられ、モダリティや、文の類型などと関係し合っていることもあって、理解しにくく、習得が難しいと考えられている。さらに、多義的用法をもつ陳述副詞とその類義語の使い分けになると、もっと難しくなる。例えば、先行研究によれば、学習者は以下のような誤用をするという<sup>1</sup>。

1 来ないのなら、きっと（→必ず）先生に話してください。（市川 2000）

2 暇になると、私はきっと（→必ず）この店へ食べに行きます。（関口他 2005）

3 明日テストがあるから、彼は必ず（→きっと）早く寝たと思います。（王 2006）

4 いつも私のことをバカにしている陳さんを、必ず（→きっと）見返してみせます。（市川 2000）

「必ず」と「きっと」には共に「推量」「意志」「依頼」「確率」用法がある。このような多義的用法をもっているため、類義語である「きっと」と「必ず」の使い分けは学習者にとって難しいと思われる。その一方、「副詞の指導は十分受けておらず、学習者たちが辞書（対訳辞書、国語辞書）を頼りに、自分たちの勝手な判断で適当に使い、その使い方に不安を感じているのが実態である。」と小林（1992）は指摘している。そこで本稿では、中国人日本語学習者（以下、学習者と省略する）の使用状況を把握し、中国の大学の日本語教育における「きっと」と「必ず」の指導の実態を明らかにした上で、今後の副詞の指導への役立つ資料としたい。

キーワード：類義語、指導、中間言語、基本的用法

\*平成15年度生 国際日本学専攻

そのため、まず先行研究での調査結果をまとめ、学習者の「きっと」と「必ず」の使用状況を明らかにする。次に、学習者が使用している教科書や辞書などを調べ、また大学で「日本語専攻」の授業を担当している教師へのインタビュー調査を行う。そして、その指導の実態を明らかにし、問題点を指摘した上で「きっと」と「必ず」の有効な指導方法を考える。

## 2. 学習者の「きっと」と「必ず」の使用状況

中国の大学における日本語教育（学部レベル）は日本語専攻、非専攻第1外国語、非専攻第2外国語の3つに分類されている。日本語専攻は普通4年制で、1、2年生の「基礎段階」と3、4年生の「高学年段階」に分けられている。学生はほとんど大学に入ってはじめて日本語を学習する。「きっと」と「必ず」は1年生後期あるいは2年生前期に導入されている。以下、学習者の「きっと」と「必ず」の使用状況を見てみる。

### 2.1 「きっと」と「必ず」の各用法における使用状況

王（2005、2006）では、日本語母語話者（以下、母語話者と省略する）及び、日本語を専攻としている学習者の「きっと」と「必ず」の各用法の使用状況をそれぞれ調査した。王（2005）では母語話者と学習者の実際の使用状況において、「きっと」の各用法の使用頻度を明らかにするため、日本語母語話者10人と、上級の学習者それぞれ10人に、「きっと」について「すぐに思いつく例文10個を書いてください」と指示を与え調査を行った。王（2006）では日本語母語話者20人と、上級の学習者それぞれ20人に、「必ず」について同じ調査を行った。これら調査の結果をまとめると、以下の表1のようになる。

表1 母語話者と学習者の「きっと」と「必ず」の各用法の使用率

各用法	きっと			必ず		
	母語話者	学習者		母語話者	学習者	
		中級	上級		中級	上級
推量	92%	48%	69%	9.5%	4%	18.5%
意志	4%	43%	28%	25%	41%	25.5%
依頼	4%	8%	3%	24.5%	32.5%	37.5%
確率	0%	0%	0%	39%	22.5%	16.5%
義務				2%	0%	2%

「きっと」の使用状況を見ると、母語話者の「推量」用法の使用率が92%であるのに対して、「意志」と「依頼」用法の使用率は8%しかないことがわかる。また、学習者は学習が進むにつれ、「きっと」の各用法の使用率は母語話者に近づいていくが、「意志」「依頼」用法の使用率が高いことは変わらないことがわかる。また、「必ず」の使用状況を見ると、母語話者では「確率」用法の使用率が39%で最も高いのに対して、「意志」と「依頼」用法の使用率は母語話者よりかなり高いことがわかる。このように学習者は「きっと」と「必ず」の各用法において、「意志」と「依頼」用法を多く使う傾向があると分かる。

### 2.2 「きっと」と「必ず」の使い分けの使用状況

王（2003）では、選択問題と正誤判定問題で「きっと」と「必ず」などの副詞の使い分けを調査し、学習者はこれらの副詞の習得が困難であることを指摘している。本稿はその一部分の例文（表2）を用いて、母語話者と初級の学習者それぞれ20人を対象にして、「以下の文に「きっと」と「必ず」の中から、最も適切な1つを入れてください」と指示して、再び調査をした。その結果を以下の表2で示す。

表2 「きっと」と「必ず」の使い分けの習得状況

例文	きっと		必ず	
	母語話者	学習者	母語話者	学習者
① 今度三回目ですので、～成功したいです。	0%	35%	100%	65%
② 会社を休む時は～連絡するようにしてください。	0%	30%	100%	70%
③ このやり方は～だめだと思う。	100%	80%	0%	20%
④ 田中さんはアメリカに住んでいたことがあるから～英語ができます。	100%	30%	0%	70%

表2から、①と②の「意志」と「依頼」を表す文脈では、母語話者の「必ず」の選択率は100%であるのに対し、学習者はそれぞれ65%と70%であることがわかる。また、③と④の「推量」を表す文脈では母語話者は100%「きっと」を選択しているのに対し、学習者はそれぞれ80%と30%の選択率であることがわかる。つまり、母語話者は「きっと」が「意志」と「依頼」用法があるのにもかかわらず、①と②の文に「きっと」を用いないのに対し、学習者は「きっと」を用いている。また、母語話者は「必ず」が「推量」用法があるのにもかかわらず、③と④の文には「必ず」を用いないのに対し、学習者は「必ず」を用いている。このことから、「きっと」と「必ず」の使い分けは、学習者にとって難しいと言えよう。

以上の「きっと」と「必ず」の習得状況から、学習者は「きっと」と「必ず」の「意志」と「依頼」用法を多く使用していることや「きっと」と「必ず」の使い分けが困難であることがわかった。では、学習者はどんな影響を受けて「きっと」と「必ず」を使用しているのだろうか。次は、学習者が使用している教科書や辞典などにおける「きっと」と「必ず」の説明を分析する。

### 3. 教科書や辞典などにおける「きっと」と「必ず」の説明

中国の大学における日本語教育の「基礎段階」<sup>2</sup>では、基礎言語知識と技能の訓練を教育の目的としている。教材はいくつかの有力大学が『高等院校日語專業基礎階段教学大綱』<sup>3</sup>（1、2年生基礎課程用）準拠の教材をそれぞれ作り、その他の大学はそれを利用することが多い。広く使われている教材としては、『新編日語』全4冊（上海外国語大学）がある。

本節では学習者が主に使用している教科書『新編日語』、及び対訳辞典『新日漢辞典』における「きっと」と「必ず」の説明と例文を分析する（表3）。『新編日語』は中国語母語話者を対象にした教材であるため、説明は中国語で書かれている。一つの課が本文、会話、応用文、単語、言葉と表現、ファンクション用語や練習から成り、また言葉の表現に多くのページを費やし、コミュニケーションにも目を向けている。「きっと」と「必ず」はそれぞれ第1冊第12課（p212）と第1冊第17課（p253）に、「元旦は大変な人出で、バスがきっと混むでしょう。」と「必ず鉛筆で書いてください。」という文で導入されている。このような導入の仕方によって学習者は「きっと～だろう」や「必ず～ください」という結びつきが認識できるはずである。しかし、単語表にある「きっと」と「必ず」はすべて中国語の「一定」で表されていることから、学習者は「きっと」=「必ず」=「一定」と捉えてしまい、「きっと」と「必ず」の使い分けに困難が生じる可能性がある。また、学習者は学習の初期段階では、まだ日本語に対する語感がそれほど発達していないため、日本語を学習する際、母語の翻訳で学習する癖があると予想できる。したがって、学習者は「きっと」と「必ず」を使用する際、無意識のうちに例文から用法を覚えるのではなく、母語である中国語を覚えてしまうと考えられる。

表3 教科書、辞典における「きっと」「必ず」の説明

教材名	副詞	説明	例文
新編 日語	きっと	一定	元旦は大変な人出で、バスが～混むでしょう。
	必ず	一定	～鉛筆で書いてください。
新日漢 辞典	きっと	一定必然 确实	彼は～来る。／他一定来。 ～お元気だよ。／一定很健康。 ～行くよ。／一定去。 ～知らせてください。／一定要通知我。 あそこに行く～彼に会える。／到那一定能见到他。
	必ず	一定必然	勝利は～人民のものである。／胜利一定是属于人民的。 われわれの目的は～なしとげられる。／我们的目的一定能达到。

中国語の「一定」にも「推量」と「意志」「依頼」用法がある。王(2004)では中国語母語話者は「一定」の「意志」<sup>4</sup>用法を多く使っており、よりプロトタイプであると指摘している。したがって、学習者は「きっと」と「必ず」を使用する際、先に中国語の「一定」の用法を考えるため、「意志」と「依頼」用法を過剰に使用してしまうことが考えられる。さらに、中国語の「一定」は使用範囲が広く、人称、時制、述語のタイプなどの制約がない(王2004)のに対し、「きっと」「必ず」は使用上に制約があるため、学習者の「きっと」と「必ず」の誤用が多く見られるのだろう。このことから、教科書の説明が、学習者の「きっと」と「必ず」の中間言語を生み出す遠因になっている可能性がある。

教科書には「きっと」の中国語訳は「一定」でしか書かれていないため、学習者は普通「きっと」と「必ず」の詳しい例文を知るために、辞書を頼りにするしかない。『新日漢辞典』を調べてみると、「きっと」や「必ず」の中国語訳はすべて「一定」で説明されている。例文を見てみると、「きっと行くよ」や「きっと知らせてください」のような話し手の「意志」を表す文が挙げられ、しかも、「きっと」と「必ず」の例文はすべて「一定」で訳されている。そのためこれを読んだ学習者は「きっと」＝「必ず」＝「一定」という誤った理解がより深まってしまっだろう。このように、学習者は辞書を頼りに文を組み立てることでさらに誤用を招いてしまう。

以上のように、教科書と辞書では、「きっと」と「必ず」はすべて「一定」と訳されているため、学習者は「一定」を思い浮かべて、「きっと」と「必ず」を使用していると考えられる。そのため、学習者は「一定」に具わった用法については習得が早く、「一定」と異なった用法については習得が遅くなり、誤用をしやすくなるのだろう。したがって、教師の指導はとても重要な役割を果たしてくるに違いない。次の節では、これらの副詞について教師がどのように指導しているのかを示す。

#### 4. 教師の「きっと」と「必ず」の指導の実態

中国の大学の日本語教育において、1年目の授業では、一般的に新出語彙、文法、文型などを中国語で説明し、2年目からは中国語での説明が少なくなり、3、4年目からは、ほとんど日本語で授業を行う。「きっと」と「必ず」はほとんどの教科書において、1年目の時、すでに導入されているため、教師が説明する際、中国語の「一定」で説明するだろうと予想できる。

本稿では中国の4つの大学での日本語専攻基礎教育を担当している教師10人にインタビュー調査を行った(資料参照)。語彙を指導する際、10人とも「難しいと感じる品詞が副詞」であると挙げている。また、10人とも「類義語と多義語の説明が難しい」と答えた。陳述副詞を指導する際難しいと感じる人は5人で、その中でも「使い分け」や「ニュアンス」などの説明が難しいと挙げている。さらに、この調査の中で「きっと」と「必ず」の文をそれぞれ5つ書いてもらった。その結果をみると、50個の「きっと」の文はすべて「推量」用法であり、50個の「必ず」の文のうち、「確率」用法は5個、他はすべて「意志」や「依頼」用法であることがわかった。このことから、

教師が「きっと」の「推量」用法及び「必ず」の「意志」と「依頼」用法については、うまく使えると思われるが、「きっと」と「必ず」のすべての用法については正しく使えるかどうかはわからない。

次に教師が実際にどのように「きっと」と「必ず」を指導しているかを見てみたい。調査の中で、「授業で『きっと』と『必ず』の使い分けを説明しますか」という質問に対し、「説明しない」と答える人は3人、「説明する」と答える人は7人いた。「説明しない」の理由に関しては「まだ初心者を教えているので、(困らない程度なら)混乱をさせないため、語彙の細かい使い分けを保留している」や「単語だから、中国語の意味だけわかればいいと思う」、「特になし」がある。しかし、教師が説明しなければ、学習者は教科書や辞書を頼るしかないため、そこに書かれている中国語の意味及び例文を読んで、3節で述べたように、学習者は「きっと」＝「必ず」＝「一定」のように捉えてしまう。

「説明する」と答えた教師が書いた説明を見てみると、「初級段階の学生を対象に指導しているので、固定用法(共起パターン)を簡単にしか説明しません。例えば、『きっと～でしょう』、『きっと～だろう』、『きっと～と思う』や『一定』という意味ですが、実際使うときは『きっと』はよく推測を表す言葉と一緒に使うのに対して、『必ず』はよく依頼を表す言葉と一緒に使う」、「中国語の「一定」に相当する。固定の述語形式と呼応し、話し手の心情あるいは態度を表す」などのように、「きっと」と「必ず」は特別な文末言語形式と呼応することを明示的に示したが、共起の制限を示しておらず、中心的な意味が何であるかの指導もない。このような説明は学習者にとっては覚えやすいかもしれないが、その一方で、学習者は「きっと」と「必ず」はすべて「一定」で訳されているため、「類義語である」と考えてしまう。「きっと」と「必ず」の相違及びニュアンスを学習者に説明しなければ、学習者は自分なりの理解で習得してしまう恐れがある。その場合に誤った理解を生じさせる可能性もある。さらに、時間が経つと、誤った理解がそのまま定着して、学習者の中間言語を形成してしまうと考えられる。

以上で教科書や辞書における「きっと」と「必ず」の説明と、教師の指導実態を示した。このように「きっと」と「必ず」それぞれの語の中心的な意味を捉えずに、中国語の訳と例文を使って説明するだけでは、やはり学習者は不自然な文を作ってしまうことになると考えられる。したがって、教師には、これらの単語のそれぞれの意味用法、使い分け、ニュアンス及び中国語の「一定」との相違を把握した上での系統的指導が必要であると思われる。

## 5. 「きっと」と「必ず」の指導例

「きっと」と「必ず」はほとんどの教科書において、初級段階で導入されるため、初級で「きっと」や「必ず」に関して十分な指導をしないまま中級に入ると、説明するチャンスが少なくなり、改めるのが困難になる。また、初級の学習者は自分で語彙を理解し、使用するのが困難であるため、混乱させないような有効的指導が必要である。

教科書での「きっと」や「必ず」の導入方法においては、そのものを指導しようとして導入されているのではなく、基本文型や場面に応じて導入されているのが現状のようである。したがって、文末の言語形式との共起だけでなく、共起の制限の指導が初級では必要となる。その際、「きっと」や「必ず」中心的意味が用いられる文脈、及びこれらの副詞が表すニュアンスがポイントとなる。また、教師側は中国語の「一定」との相違も配慮する必要がある。

先行研究王(2005、2006)<sup>5</sup>から、「きっと」と「必ず」の両方とも「推量」「意志」「依頼」「確率」の4つの用法があり、それぞれ「話し手の事柄が成立することへの強い思い」と「客観的な事態が確実に成立すること」を表すことがわかった。また、「きっと」のカテゴリー構造において「推量」用法がプロトタイプであり、「必ず」のカテゴリー構造において「確率」用法がプロトタイプであることがわかった。そのため、「きっと」は「推量」を表す文脈に多く用いられるのに対し、「必ず」は「確率」「意志」「依頼」を表す文脈に多く用いられる。さらに、これらの副詞の使用範囲は「中国語の『一定』より狭い」ことを説明する必要がある。

「きっと」と「必ず」は「推量」用法を表す場合、「事実」を表す文脈には用いることができない。「必ず」に関してはさらに「過去」「否定」「状態」を表す文脈にも用いることができない。また、現代の日本語では、「きっと」の「確率」用法はほとんど使われていないことを学習者に伝える必要がある。さらに、具体的な例を挙げながら、「きっと」と「必ず」のニュアンスを示す必要がある(王2005、2006を参照)。

①「推量」用法

A 明日パーティーがあるから、彼はきっと来る(だろう)。

A' 明日パーティーがあるから、彼は必ず来る。

Aは話し手が「パーティーがある」という根拠から、「彼が来る」と推測している。よく「～だろう」「～と思う」「～はず」などの文末表現と共起する。A'は、話し手は「彼は来る」という客観的な事柄が確実に実現することへの強い確信を持っていることを表す。例えば、医者患者に対して、「大丈夫です、きっと治りますから。」という推量を表す発言よりも、「大丈夫です、必ず治りますから。」という100%治るような発言のほうが、患者にとっては安心できる。また、「曇っているから、今日雨が降るだろう。」の文では、100%雨が降るとは言えなく、ただ話し手は「曇っている様子」を見てからの推量を表すため、ここでは「きっと」を用いたほうがいい。

②「意志」用法

B 明日のパーティーきっと行きますわ。

B' 明日のパーティー必ず行きます。

B、B'とも話し手の「意志」を表す用法であるが、「必ず」は「きっと」よりも強い決断を表す。あるいは、「必ず」は責任感が強く、積極的なニュアンスがあるのに対し、「きっと」は話し手の主観的な意志のニュアンスがある。例えば、「明日の会議はとても大事だから、欠席してはいけません」に対して、「はい、わかりました。必ず出席します」と答えるべきあり、「いつも私のことをバカにしている陳さんを、～見返してみせます。」の文では、話し手の主観性が強く感じられるため、ここでは「きっと」を用いたほうがいい。

③「依頼」用法

C 明日のパーティーきっと来てね。

C' 明日のパーティー必ず来てね。

田(1998)では、『来てください』の場合、『必ず』には、当然そうすべきだというニュアンスがあり、相手がそうする義務を負っていることをにおわすが、『きっと』は、間違いなく・忘れずに・約束してね・そうしてくれると信じていますという、お願いの気持ちや、相手に対する信頼がこめられている。」と述べている。例えば、「五時に映画館の前で待っているから、みなさん～来てくださいね」の文では「きっと」を用いる場合、聞き手は「できれば来てね」と聞こえてしまう可能性もあるため、「行かなくてもいい」と思ってしまうだろう。反対に「必ず」を用いる場合、聞き手は「来なければならない」と聞こえるため、「義務」だと考えて100%行くと考えられる。

④「確率」用法

D パーティーがあると、彼は必ず来ます。

Dは「パーティーがある」という条件の下で「彼は来る」という客観的な事柄の実現する確率が100%であることを表す。「必ず」の確率用法として使われる際、「習慣」「真理」「自然規則」を表す文脈に用いられる。例えば、「彼は週一回必ず手紙を書く」、「3から1を引くと必ず2になる」、「朝になれば、太陽は必ず昇る」。この場合「きっと」が用いられない。

以上のように、まず日本語の「きっと」「必ず」と中国語の「一定」のカテゴリー構造(何が中心的意味か)の違いを説明した上で、具体的な場面を想定しながら、それぞれのニュアンスを示すというような指導方法はより有効的であり、必要になるであろう。

## 6. 終わりに

「きっと」や「必ず」のように多様な文脈に用いられ、類義語である語を指導するというのは難しいことと思われる。そこで指導する際に、日本語母語話者が無意識に使用している言語ルールと母語話者がもっている語感をできるだけわかりやすく一般化して学習者に示す必要がある。本稿は「きっと」と「必ず」の意味用法、及び中国語「一定」との対照などの基礎研究に基づき、中国大学日本語教育における「きっと」と「必ず」に対するより有効的な指導方法を考えてみた。そこから、「きっと」と「必ず」のカテゴリー構造のそれぞれの特徴を示し、中国語「一定」と比較した上で、具体的な場面を想定しながら、ニュアンスを示すほうがより実用的かつ効率的であることを提示した。今後の課題として、このような指導は本当に学習者の負担を減らすことができるかどうか

か、学習者は指導を受けた後、「きっと」と「必ず」に対する習得状況がどう変わっていくのかをさらに検証する必要がある。

## 注

- 1 1、2、3、4の例文は「きっと」と「必ず」の誤用文である。()内のものは市川による訂正である。
- 2 中国における外国語教育の段階的には、大学1・2年で外国語の基礎をしっかりと固めた上で、3・4年でさまざまな知識を身につけ、外国語教育の効果をあげようとする。ここでの「基礎段階」は大学1・2年のことを指す。
- 3 『高等院校日語專業基礎階段教学大綱』とは中国教育部が定めた日本語専攻大学生基礎課程(1、2年生)用の指導要領のこと。
- 4 王(2004)では、「推量」用法は話し手の意志にかかわらない用法であり、「意志」用法と「依頼」用法は話し手の意志にかかわる用法であるため、中国語の「一定」は大きく「推量」用法と「意志」用法に分けた。そのため、王(2004)での「意志」用法は「依頼」用法も含んでいる。
- 5 王(2005,2006)はそれぞれ認知言語学的観点から、「スキーマ」(抽象的な意味)「プロトタイプ」(基本的用法)「拡張」という概念を用いて、「きっと」と「必ず」の意味構造を分析した。詳しく論文を参照すること。

## 参考文献

- 市川保子(2000)『続・日本語誤用例文小辞典—接続詞・副詞—』凡人社
- 王冲(2003)「中国語母語話者の副詞の習得研究—「必ず」「きっと」「絶対に」の場合」修士論文未公開
- 王冲(2004)「日本語陳述副詞「きっと」と中国語語気副詞“一定”との対照研究—日本語教育における陳述副詞「きっと」の指導のために—」『お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間文化論叢』7: 325-334
- 王冲(2005)「陳述副詞「きっと」の意味構造と日本語教育への応用可能性—認知言語学観点から—」『日本認知言語学会予稿集6』179-182
- 王冲(2006)「『必ず』の意味構造と日本語教育への応用の可能性—認知言語学的観点から—」『言語文化と日本語教育31号』掲載予定
- 大関真理(1993)「日本語教育の視点からみた副詞」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊創刊号1-14
- 北條淳子(1982)「日本語学習の中級段階における副詞の問題」『木村宗男先生記念論文集』早稲田大学語学教育研究所165-181
- 小林典子(1992)「『必ず・確かに・確か・きっと・ぜひ』の意味分析」『筑波大学留学生センター—日本語教育論集』7:1-17
- 関口要・堀伸一郎・黄淑妙(2005)「台湾人日本語学習者作文データベースを利用した誤用分析—副詞の使用とその誤用傾向について—」2005年日語教学国際会議 台湾の東呉大学日本語文学系主催
- 田忠魁・泉原省二・金相順(1998)『類義語使い分け辞典』研究社出版

## 参照教科書と辞書

- 『基礎日語教程』外語教学与研究出版社
- 『新編日語』上海外国語大学編
- 『新日汉辞典』大連外国語学院『新日汉辞典』編写組編遼寧人民出版社

## 資料(教師へのインタビュー調査紙)

- 1 貴大学の基礎日本語教育で使用されている教材は何。
- 2 今使用している教材についてどう思います。(よい、普通、よくない)
- 3 語彙を説明するとき、どの品詞を説明しにくい、あるいは自信がないと感じていますか。
- 4 語彙の意味とか、使い分けとかわからないとき、どのように調べますか。
- 5 よく使っている辞書や学習の本は何。
- 6 類義語、多義語の説明が難しいですか。(困難、普通、簡単)
- 7 陳述副詞を教えるとき、困ったことがありますか。ある場合、どんなことですか。
- 8 今使用している教科書では、陳述副詞「必ず」と「きっと」は学習のどの段階(あるいは何冊目の第何課)に導入されていますか。なお、説明がある場合、どのような説明ですか。この説明をどう思いますか。説明がない場合、その例文を教えてください。

## 王 中国の大学の日本語教育における副詞の指導への考え

- 9 「必ず」と「きっと」の思いつく例文それぞれ5個を書いてください。
- 10 授業で「必ず」、「きっと」それぞれ説明しますか。また、「必ず」と「きっと」の使い分けについてどのように説明しますか。説明する場合、どのように説明するのかを具体的に書いてください。また説明しない場合、その理由を書いてください。
- 11 自分は「必ず」と「きっと」の使い分けについて自信がありますか。(ある、ない、わからない)
- 12 学習者は「必ず」と「きっと」についての習得状況どうですか(困難、普通、簡単、わからない)。その判断をする理由があれば、書いてください。
- 13 「必ず」と「きっと」の指導について、何か提言はありますか。

(2005年12月1日受理)